



国立大学法人

帯広畜産大学の取り組み

コロナ状況下で学長第2期目を迎えて

新型コロナウイルス感染症(コロナ)に関する緊急事態宣言が全国解除されてからかなりの時間が経っていますが、各地の発症者数がいまだに日々のニュースとなっており予断を許さない状況が続いています。こうしたウィズコロナを覚悟しなければならない中、私の『2期目を迎えて』の課題は、「学生および教職員の感染リスクを限りなくゼロに近くすること」「教育・研究の保証」「学生への適切な情報提供」です。こうした中、学生への支援は極めて重要な課題です。コロナ禍における本学の「学生支援」は、全ての学生が平等にオンライン授業を受けられるよう「ネット環境の充実」や「PCやルーターの貸与」などを全て大学が中心となり徹底することを第一としました。3月には「PCを持っているか」、「自宅で動画を受信するためのネット環境の善し悪し」などを全ての学生について個別にチェックし、これらと同時に「Zoomシステムの導入」、「PC、ルータの購入」、「PC、ルータ不備学生への貸与(送付)」などを4月中には終え、5月からスタートしたオンライン授業はトラブルなく現在も進行中です。なお、前期の授業は実習を除き全てオンラインで実施することとしました。こうした対応は、学生数の少ない本学だからこそなし得たことと思っています。また、文部科学省の困窮学生支援に加え、本学独自の給付型奨学金(大学基金奨学金)や授業料・入学金免除も用意しました。これらの学生の修学支援には、皆様からの寄附金(基金)を利用させていただき実施しています。この場をお借りして皆様のご支援に深く感謝申し上げます。



コロナ関係以外では、三大学経営統合(国立大学法人北海道国立大学機構)に向けた準備を着々と進めています。帯広市に置く法人本部の事務組織の具体案を固めつつあり、また三大学のそれぞれの特徴を活かした「連携教育」については学生にとって魅力あるいくつかの講義科目を開講するところまでできています。連携教育を実施する上での「遠隔教育のあり方」は大きな検討課題でしたが、コロナ禍で全ての大学で遠隔教育システムの導入が進み、この課題は一気に解決されたと言えます。

学長からのメッセージとして、色々とお伝えすべきことがありますが、今回は「コロナ対応」と「三大学経営統合」の近況についてお知らせいたしました。これからも皆様の温かいご支援をお願いします。



オンライン授業の様子



学生の代わりに教員が作業する風景を撮影して、オンラインでの実習に活用

アジア初の欧州獣医学教育認証取得

グローバル化の進展によってヒトやモノの国境を越えた移動が盛んになり、感染症対策、食の安定供給・安全確保など獣医師に対する社会の要求は高まっています。本学と北海道大学の共同獣医学課程は、これらの社会的要望に応えるため、獣医学教育の改善に取り組み、令和元年12月、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE: European Association of Establishments for Veterinary Education）の認証をアジアで初めて取得しました。

EAEVEはオーストリア・ウィーンに本部がある獣医学教育評価機関で、欧州の獣医学教育における質保証の基準及びガイドラインを策定するとともに、大学がそれらを遵守しているかを審査・評価しています。評価は、①重大な欠陥事項がない「認証」、②重大な欠陥事項が1点存在する「条件付き認証」、③重大な欠陥事項が2点以上存在する「非認証」の3つに分かれています。

本課程は、山口大学と鹿児島大学の共同獣医学部とともに、国の支援による「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」（平成24～29年度）事業を実施し、産業動物臨床棟などの施設・設備の整備や実習教育の充実などハード・ソフトの両面から獣医学教育水準の向上に取り組んだ結果、審査により「認証」の評価を得て、国際水準を満たした獣医学教育を実施していることが認められました。

今後は、動物福祉に関する教育の充実など、継続的な教育改善を推進するとともに、認証取得過程で得た経験と知識を国内外の大学に普及させることで、我が国さらにはアジアの獣医学教育の改革を牽引していきます。



笠原正典北海道大学総長代行、奥田学長、岡正朗山口大学長、佐野輝鹿児島大学長（左から）



本学及び北海道大学の学生が実習に参加する様子

4年目を迎えた 農業共生圏高度専門家育成事業

本事業は、北海道の基幹産業である農業を始めとする経済活動と、自然生態系における生物の多様性を両立し、農業生態圏と自然生態圏の共生を実現できる「農業共生圏高度専門家」の育成を目指し、平成29年度から開始しました。

令和元年度は野生生物の保全と管理の基礎を学ぶ「野生生物保全管理講習会」の他、特別講義として「コウモリ捕獲技術講習会」、「人への伝え方～協働による野生生物対策～」を実施しました。また、地域の方々に身近な野生生物への理解を深めていただくため、環境教育やパンフレットの作成も実施しています。

これからも、人と野生生物の共存を目指し、様々な事業を実施していきます。



野生生物保全管理講習会のフィールドワークの様子

株式会社ロジネットジャパンと 連携・協力に関する協定を締結

令和2年2月25日に、株式会社ロジネットジャパン（LNJ）と連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定は、本学における教育研究活動とLNJにおけるビジネスノウハウ、ビジネスネットワーク等の経営資源を融合し、農業の伝承、生産力の維持拡大に向け、生産後継者の育成や機械化による効率化などを進め、農業の6次化という先を見据えた事業モデルを構築し、北海道農業の発展に寄与することを目的としています。

本連携では、学内に実験圃場を設置し、馬鈴薯生産体制の確立検証を実施するとともに、馬鈴薯生産に関わる実証研究を実施します。



木村社長と奥田学長（左から）



実験圃場での作付けの様子

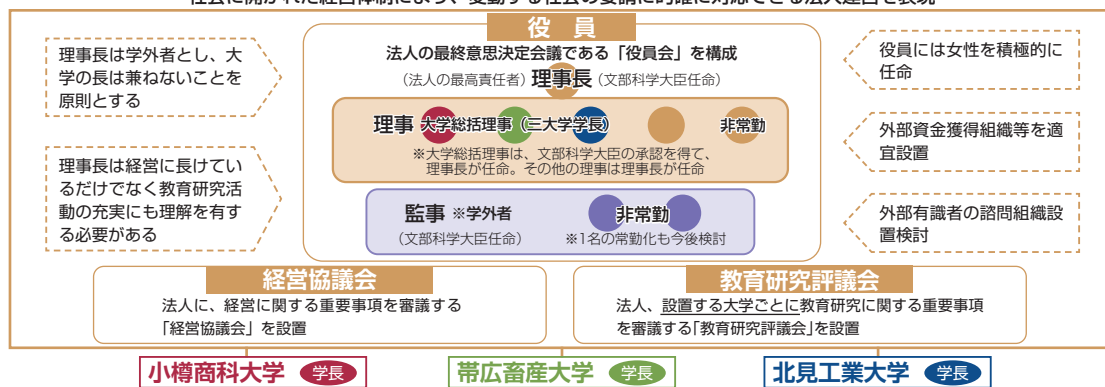
「北海道国立大学機構（仮称）」設置による経営改革の推進

本学、小樽商科大学、北見工業大学の三国立大学法人は、令和4年4月の経営統合に向けて、令和2年2月に「経営統合による新たな国立大学法人の経営方針等について（中間まとめ）」をとりまとめました。

中間まとめにおいて、新法人の名称を「国立大学法人北海道国立大学機構」とし、新法人は社会に開かれた経営体制により、社会の要請に的確に対応できる運営を実現します。教育面では、三大学学生の文理融合教育へのニーズの高さに対応し、令和4年度から最先端の遠隔教育システムにより三大学の学生が相互に履修可能な文理融合教育プログラムを学部教育において本格実施します。研究面ではオープンイノベーションセンターを設置し、社会実装指向の共同研究実施体制により、商・農・工連携による複数の研究プロジェクトを推進します。

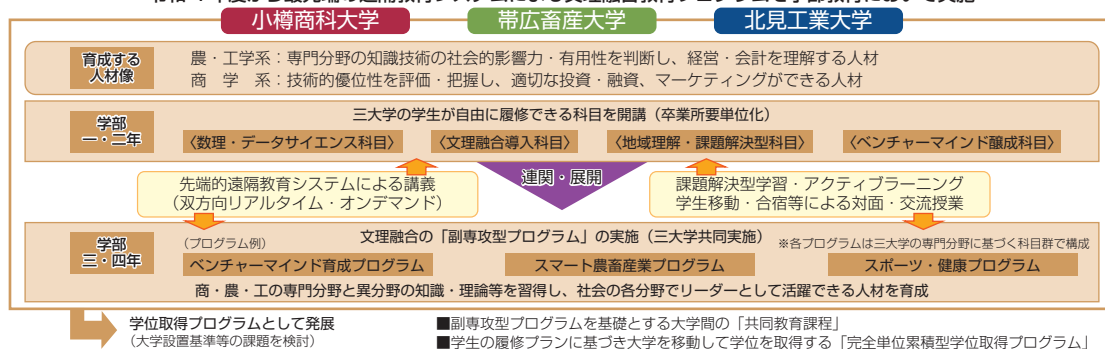
国立大学法人北海道国立大学機構（仮称）

社会に開かれた経営体制により、変動する社会の要請に的確に対応できる法人運営を表現



三大学連携の文理融合教育プログラム

令和4年度から最先端の遠隔教育システムによる文理融合教育プログラムを学部教育において実施

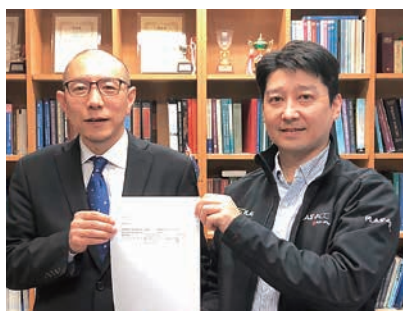


有限会社社台コーポレーション 社台ホースクリニックと連携協定を締結

令和2年3月10日に、本学動物医療センターと有限会社社台コーポレーション社台ホースクリニックとの間で、学術の振興と獣医療の発展に取り組むことを目的とした連携協定を締結しました。

社台ホースクリニックは、馬の総合医療施設として、開腹手術、内固定術、関節鏡手術や喉頭形成術など様々な手術を行っており、その豊富かつ高度な治療技術は国内外から高く評価されています。同施設とは、これまでも獣医師を特任教授として招聘し、数々の高度な獣医療に取り組むとともに獣医師の育成を連携して進めてきました。

この協定により、両施設がこれまで積み重ねてきた教育及び診療における協力関係を一層強化して、発展させるとともに、教職員の交流の活発化や研究活動の実施及びその成果の社会活用など、多様な連携を図り、有益で継続性のある取組を推進します。



動物医療センター長の南保教授と社台ホースクリニックの加藤院長（左から）

本学構内に酒蔵完成、教育研究の活性化へ

令和2年5月28日に、本学構内に酒蔵「碧雲蔵（へきうんぐら）」が完成しました。

本酒蔵は、本学と上川大雪酒造株式会社、十勝緑丘株式会社が令和元年7月に締結した協定に基づき貸与した土地に建設されたものであり、約3,700平方メートルの敷地の中に、仕込みをする製造棟や大学の講義にも活用できるセミナー棟などがあります。

前記の協定は、新たな産学連携の取組みとして、「食」の重要な要素の一つである「発酵・醸造」に係る現場レベルの実践的な教育や酵母・発酵に関する共同研究など教育研究の活性化、更には、十勝地域の産業振興並びに北海道経済・産業の発展を図るものです。

今年度は、上川大雪酒造株式会社の杜氏による講義や、酒蔵の見学、インターンシップの受入等を実施するとともに、今後は併設したセミナー棟を活用した講義、酒蔵内での実践的な実習、共同研究、共著論文執筆など、連携内容について協議し、教育研究の活性化を推進していきます。



酒蔵「碧雲蔵」

畜産科学課程3年鈴木なごみさんが第13回「全農学生『酪農の夢』コンクール」最優秀賞を受賞

このコンクールは全国農業協同組合連合会（全農）が全国の酪農や畜産、園芸や農学等を学ぶ学生を対象に、『酪農の夢』をテーマにした作文・論文募集したもので、応募作品 227 点の中から鈴木なごみさん（畜産科学課程 3 年）が最優秀賞に選ばれました。

鈴木さんの題目は「人生を変えてくれた酪農～私らしく生きる～」です。当初は人と関わりたくないという理由で、牧場に一人牛に囲まれているイメージの酪農家を目指し本学に入学しました。酪農実習を通して酪農の世界は想像以上に狭いことに気づき、また、大勢の方々との繋がりができたことで、その方々の期待に応えなければいけないというプレッシャーを感じていました。そんな時に、再び初めてお世話になった酪農家の元へ実習に行き、親方から「出来ないことは出来ないと言っていい。」と言われ、今まで張りつめていた心が解放されました。今では人と関わることが好きになり、将来は酪農の魅力を多くの人に伝えられる酪農家を目指しています。

鈴木さんは最優秀賞を受賞したことについて「友人や実習先の酪農家の方々からおめでとうと言ってもらえたことがうれしかった。」と語りました。



受賞した鈴木なごみさん

修士課程食品科学専攻2年五嶋大介さんが株式会社満寿屋商店との共同研究により商品を開発

五嶋大介さん（修士課程食品科学専攻 2 年）は 2 年前の株式会社満寿屋商店（ますやパン）との共同研究により開発された、特許製法の発酵種「わさび種」と「炊き種」を利用し、生地種にマッシュポテト等を加えた発酵種を開発しました。

テーマは「甘くない食パンを作る」とし、種の糖分はマッシュポテトのみで、通常材料の砂糖は加えていません。また、開発した発酵種を加えることにより、グルテンが通常よりも強くなりもちり感のある食感と口溶けの良さを実現し、新商品「トーストブレッド」をますやパンと共同で発表しました。

「トーストブレッド」は、ますやパン麦音で販売が開始されています。五嶋さんは「実際に店頭に並ぶ商品開発に携わることができ大変嬉しく思います。」と喜びを語りました。



五嶋さん、満寿屋商店 開発担当 佐々木さん、総務部 蛸井さん（左から）

馬術部が全日本学生馬術大会 2019 において大活躍

全日本学生馬術大会 2019 の M-D 障害馬術競技において、空屋長良さん（畜産科学課程 4 年）が優勝、瀬之口小夏さん（同 3 年）が準優勝に輝きました。

M-D 障害飛越競技は最大 110cm の障害物を飛越する競技で、この競技には全国から 24 大学、34 人馬が出場しました。

また、総合馬術競技では 2 大会連続団体第 4 位入賞という素晴らしい成績を収めました。

この競技には、全国から 25 大学（うち団体出場は 15 大学）、70 人馬が出場しました。決められた競技馬場内で、いかに馬を思い通り美しく動かすことができるかを競う「馬場馬術競技（調教審査）」、自然に近い状態の地形に生垣、池、丸太等の障害物を駆け抜ける「クロスカントリー競技（耐久審査）」、様々な色や形で作られた障害物を崩さずに飛越し、走行タイムと障害物の落下の少なさを競う「障害飛越競技（余力審査）」の 3 種目を、同一人馬により競いました。



瀬之口さん（左）と空屋さん（中央）

クラウドファンディング事業の進捗

平成 30 年度に READYFOR 株式会社と提携したクラウドファンディング事業について、これまでに 3 件を公募しました。すべて想定を大きく上回るご支援をいただき、事業を実施しています。

第 1 弾はダチョウサークルが挑戦し、ダチョウが自由に走り回れるように、飼育施設を拡張し、ダチョウたちがストレスなく過ごせる環境を整えました。第 2 弾はカーリング部フジヤマペアが、ミックスダブルスカーリング日本一を目指して、練習頻度増加、強化合宿、大会遠征などによるレベルアップを図りました。第 3 弾は環境農学研究部門 浅利裕伸特任講師が、エゾリスの交通事故を減らすため、エゾリスのアニマルパスウェイ（動物用の道路横断構造物）利用実態を調査し、新たなアニマルパスウェイの開発に役立てるべく活動中です。

今後も引き続き事業を計画し、研究の活性化や学生の活動支援を図ります。



「林と林をつなぐ歩道橋でエゾリスの交通事故を減らしたい」

帯広畜産大学広報室

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西 2 線 11 番地

TEL (0155)49-5228 / FAX (0155)49-5229 <https://www.obihiro.ac.jp>